

Management Interview



Question

1

平成18年3月期の決算の概要について説明してください。

情報機器事業では、『ジャンルトップ戦略』を推進しています。これは、特定の市場や事業領域に経営資源を集中して、そのなかでトップブランドとなることを目指すものです。この方針に沿って、急速に市場が拡大しているカラーMFP分野での一層の強化を図りました。『bizhub(ビズハブ) C351』など競争力のある新製品4機種を投入し、国内外での拡販に努めた結果、当期のカラーMFP販売台数は前期比で倍増し、販売シェアも拡大しました。特に、当社が強い販売基盤を持つ欧米市場においては、いわゆるオフィス向け中高速カラーMFPのトップブランドとしての地位を確立しています。

オプト事業では、需要拡大が続く液晶偏光板用保護フィルム(TACフィルム*)の生産能力増強に努めました。特に、当社が注力する大型液晶テレビ用視野角拡大フィルムなど、高機能製品を中心に販売は大きく伸びまし

た。また、パソコンなどに内蔵されているハードディスク駆動装置に使われるガラス製ハードディスク基板や、カメラ付携帯電話に搭載されるマイクロカメラなどの販売も大きく伸びました。メディカル(医療)事業でも、デジタルX線画像読取装置『REGIUS(レジウス)』シリーズなど、デジタル機器の販売が国内外で好調に推移しました。

事業終了に向けて規模縮小を進めるフォトイメージング事業の売上減少を、これら事業の伸びが補い、当期の連結売上高は前期並みの水準を確保できました。全社的なコストダウンや新製品効果などにより、当期の営業利益、経常利益はともに過去最高となりました。しかしながら、フォトイメージング事業の撤退損失などにより最終損益は、543億円の当期純損失となりました。この結果、当期末配当も見送ることとなり、誠に遺憾に存じます。情報機器、オプト事業を中心に早期の業績回復、そして復配に向けて全力を尽くしていきます。

* TACフィルム: トリアセチルセルロースフィルム

Management Interview



目標達成に

Question

2

このたび中期経営計画「FORWARD（フォワード）08」を策定しましたが、当計画の注目すべき点は何ですか？

情報機器事業、オプト事業を中心としてグループ成長を目指す方針に変わりはありませんが、その考え方を一歩進め、MFP・プリンタやデジタル印刷機、医療機器などからなる「機器・サービス事業群」と、光学コンポーネントや液晶ディスプレイ部材からなる「コンポーネント事業群」を両輪として、成長を加速させていくことを本中期計画の主旨としています。現在のグループ事業の枠組みを超えて事業間シナジーを追求し、事業付加価値を高めることを狙いとしています。

「機器・サービス事業群」では、当社の強みとする重合法トナーや画像技術などを活かして、一般オフィスだけでなくお客さまの業種・業態別にきめ細かく対応できる製品やソリューション・サービスの提供にも努めていきます。また、POD（プリントオンデマンド）やプロダクションプリント（軽印刷）の領域への取り組みも促進させていきます。「コンポーネント事業群」では、光学技術、製膜技術、微細加工技術など、当社の強みをさらに高度化・複合化することで競争力を強化し、事業領域の拡大を目指していきます。

対する執着

Question

3

中期経営計画の初年度にあたる平成18年度の重点取り組み課題は何ですか？

情報機器事業では、カラーMFPと高速MFPのさらなる販売拡大に注力し、ソリューション提案力やソフト開発の強化を図ります。オプト事業では、TACフィルムやガラス製ハードディスク基板などの生産能力の増強を進め、事業規模の拡大に取り組み、生産技術においてもさらに強化していきます。また、メディカル事業でもデジタルX線画像関連機器の販売強化に取り組み、これらの事業を中心にグループの総力をあげて成長を目指していきます。

今後は、これらの事業分野において革新的な製品やプロフェッショナルなサービスの提供を通して、『お客さまのビジネスを成功に導くための良きパートナー』として認知いただける、新たな企業イメージの構築を目指します。

Management Interview

太田 義勝 プロフィール

1964年 ミノルタカメラ入社
1991年 同社取締役複写機事業部長 兼 複写機営業部長
1995年 ミノルタ常務取締役
1999年 同社代表取締役社長
2003年 コニカミノルタホールディングス取締役代表執行役副社長
コニカミノルタビジネステクノロジー取締役社長
2006年 コニカミノルタホールディングス取締役代表執行役社長

京都府出身
趣味はウォーキング
信条は「常に“FAIR (公正)”であること」

Question

4

最後に、新社長としての抱負を聞かせてください。

経営統合時に策定した「統合中期経営計画」、そして平成17年に策定した「V-5プラン」ともに、その間の事業環境の激変など様々な事情があったものの、結果として実現することができなかったことには大いに反省しています。その反省を踏まえて、今回策定しました「FORWARD 08」では、「皆が汗をかいて頑張れば必ずやり遂げることができる」という目標を設定しました。同時に、単に平成20年度(2008年度)を見るだけでなく、その先のグループ成長を見据え、これからの3年間に何をしなければならないかという議論を重ね、必要なアクションプランを織り込みました。

今回のフォトイメージング事業の終了は、当社グループの事業構造における大きな変革ですが、事業を行うのは何よりも「ひと」です。私自身を含め、役員、管理職、一般従業員、すべてのコニカミノルタの人たちが変革していかなければならないと考えています。「目標達成に対する執着」「トップになるという強い意志」、このような意識を全社員が共有して「FORWARD 08」を確実に遂行し、株主の皆様に対して1日も早い復配を目指して最大限の努力をしていきます。